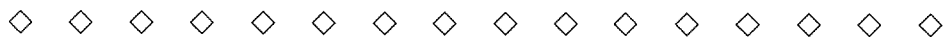


るのを心待にしている昨今です。

さて施設の建設と言うハードの部分の進展と共に、これを制御し利用する人的資源、すなわちソフトの部分の準備、充実もSPring-8による研究開始には不可欠の要件です。SPring-8利用者懇談会もその一翼を担う重要な機関として、広い分野に跨る利用者の御希望およびお知恵を総括し、より効果的な施設運用の企画を進めて行かなければならないと思っています。また私が所属する姫路工業大学理学部も、地元の有力な利用者として積極的に懇談会に参画すると共に、教育機関として、将来SPring-8関連研究に従事する研究者の育成にも努力する所存です。現在理学部では大学院博士課程を平成8年に開設し、SPring-8が完成する平成10年には最初のドクターを世に出す予定でいます。また理研、原研など播磨公園都市に来られる研究所とは連合大学院を構成して、若い学徒をSPring-8および関連施設での研究につき込みたいと計画しています。

SPring-8は巨大精密プロジェクトです。ハード、ソフト両面で、これを支える無数のパーツの1つにでも僅かなミスがあれば、プロジェクト全体に大きな支障が生じることになります。全てに完ぺきを期し、平成10年完成に向けての諸準備が進行し、施設が本格的な稼動体制に入ることを念じて就任の挨拶にしたいと思います。



## 運営委員挨拶

### ◇運営委員として

東北大学 科学計測研究所  
渡辺 誠

今期の運営委員になりました。よろしく申し上げます。現在SPring-8は立ち上げに向けて建設が着実に実行されています。共同チーム、財団の方々は光源の建設、ビームライン関係のR&Dなどに非常に頑張っておられます。また多くのサブグループの方々は先行のビームラインの設計にお忙しいです。利用者懇談会の会長や幹事の方々もビームラインの要望や共同利用に関する要望をとりまとめて共同チームや財団に提案したり、シンポジウムや講習会を企画したり大変です。御協力により、ビームラインの早期実現や研究態勢の整備等が着々と進んでいるように思います。一方、私達運営委員の主な役割は懇談会会員の御意見、御要望を会長や幹事の方々に伝え、ひいては共同チーム、財団の方々に伝えることではないかと思っています。どれだけお役に立てるかどうかわかりませんが、御意見、御要望をお寄せ下さい。

私の個人的な希望としては、光のコヒーレンスを用いるとどのような研究が新しく展開できるかということテーマにした研究会が開かれればなァと思っています。

## ◇運営委員として

東北大学 理学部

佐藤 繁

SPring-8利用者懇談会運営委員に選ばれていささか戸惑っているのが現状である。というのは今までSPring-8利用のサブグループに属したこともなく、利用計画をたてたこともないので、ユーザーコミュニティの運営委員としては不相当だと考えていたからである。しかし、このような事実はあまり問題にならないらしいので、懇談会に対して私が果たせばいい役割が何であるか考えてみた。

約30年前、私は東大原子核研究所の1.3GeV電子シンクロトロンの放射光利用実験をINS-SORグループの諸先輩の指導のもとに始めて以来、ずっと放射光科学の分野に関係する仕事をしてきた。この間、実際に関わってきた放射光源は、核研1.3GeV電子シンクロトロン(ES)、物性研の0.3GeV(現在は0.5GeV)SOR-RING、高工研2.5GeV PFリングである。0.3GeV SOR-RINGは周長17.4mの小さな円形加速器ではあるが、それでも当時大学の研究室での装置類を見慣れた私の目には十分巨大に映ったものだった。また、SOR-RINGの実験室全体は、一目で見渡せるので、放射光施設というのはだいたいこのぐらいの大きさで、どこに何があるかはほとんどすべて記憶できるものであるという固定観念ができあがっていた。

昭和54年、物性研SOR施設から高工研PFに移って基幹チャンネルの建設を担当することになった。ところが工事が進んで次第にPF施設の全容が見えてくると、とにかくすべてが大きくSOR-RING的施設の規模からの予想をはるかに超えていたのである。それもそのはずで、PFリングの周長は187mでSOR-RINGの約10倍である。PFでは何事をするにも広大なリング室を走り回らなければならず、どこに何があるかは概略しかわからなくて困惑した。かくして私の外挿による規模の予知能力は1桁よりはるか下であることがわかった。1桁大きい規模に対処するには、様々な新しい発想による設計が必要であった。

さてSPring-8の周長は1,436mでPFリングの7.7倍の長さである。これをPFの約1桁大きいとみるかPFの経験の外挿で片がつくと考えるかは微妙なところである。もちろん大部分は外挿でうまくいくであろうが、釈迦に説法になることを恐れずに言えば、各SGの方々は、PFでの経験実績はそれとして、1桁規模の大きい新しい光源をこれから利用するのだということを再認識して、SPring-8の巨大な現場に対応した実験ステーションの設計、建設に当たっていくべきであると考え。強烈な放射光に対するハードウェア面の対応はもちろんであるが、あまり走り回る必要のない使い勝手のよい実験ステーションのソフト面の設計も忘れてはならないことだと思う。

SPring-8から放射光が出たときに、速やかに実験研究が開始されることを願いながら、拙い経験に基づいた意見を述べることでこれから運営委員の役目を果たしていきたいと考えている。